

哀悼のメッセージ

ビルマで僧侶らの鉢伏せ行（不受布施）によるデモが起こり、この動きを取材しに行った APF 通信社（東京都）のジャーナリスト、長井健司さん（50歳）が独裁軍事政権の兵士に銃撃され、死亡しました。

長井健司さんは命を懸けて、ビルマでは人々が独裁軍事政権にどれほど酷く迫害されているかを、世界中に分かるように報道してくれたのです。これはある意味で、ビルマのファシスト独裁者はビルマ国だけではなく世界の人々、日本とアジアの国をも傷付けていることを伝える命懸けの報道でもありました。

まったく不正に殺害された長井健司さんは、死亡するまで取材し続けました。このように自分の仕事に対して強い責任感を持って果したことに對して特別に尊敬し、表彰いたします。そして一人の英雄的なジャーナリストとして記録します。

ビルマでこのように何の罪もない外国人を死亡させるというのは、ビルマ人として大変恥ずかしい行為であり、そうした行為を行った軍事政権を強く非難します。再びこのような最悪なことを起こさないよう、ビルマで軍事政権が倒れて、民主化を実現し、世界各国もビルマの民主化のために協力してくれると信じております。

長井健司さんが亡くなったことに對して、家族と同じ気持ちになって、ご冥福をお祈りいたします。我々は在日ビルマジャーナリストとして、ビルマの国民、ビルマのニュースメディアとジャーナル協会、海外のビルマニュースメディアとジャーナル協会の代表として深く悲しみ、哀悼のメッセージをお送りいたします。

長井健司さんが極楽往生されますように。

2007年10月8日

日本ビルマジャーナリスト協会（JBJA）

日本国東京都

（翻訳）

ナン・カン・モ・トゥン